

パリ協定のゴール に向けた検証

—2030年民生用 CO₂40%削減にどう対応するか—

温暖化が原因と推察される気候災害が急激に増加する中で、「気候非常事態宣言」の運動が活発化してきており、早急に脱炭素化へと舵を切る必要がある。わが国では、2030年民生用 CO₂40%削減の方針を打ち出しているが、少なくともこの目標に向けて建築関係者や生活者は着実に CO₂削減策を実行していかなければならない。本シンポジウムでは、改めて低炭素社会推進会議として、削減策の内容を確認し、その可能性や問題点について討議し、今後の取り組みについて議論する。

主催	低炭素社会推進会議
日時	2020年1月29日(水) 午後1:00-5:00
会場	建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)
定員	200名(申込み先着順)
参加費	会議構成団体会員2,000円、会員外3,000円、 学生1,000円(資料代含む/当日会場払い)
司会	糸長 浩司(日本建築学会) 宮崎 慎也(日本建築学会)
記録	岩本 静男(空気調和・衛生工学会)

プログラム

開催挨拶 中村 勉(低炭素社会推進会議議長)

1部「参加団体からの取り組みに関する報告」

活動報告 低炭素社会推進会議参加団体
提言(案)報告 吉野 博(日本建築学会)

2部「住宅・建築における脱炭素化に向けて」

基調講演 「CO₂削減に関する民生部門に対する我が国の方針」
国土交通省住宅局

話題提供 (1) 民生用エネルギー消費削減の可能性と課題
下田 吉之, 大阪大学(空気調和・衛生工学会)

(2) 生活行動と住宅エネルギー消費
中上 英俊, 住環境計画研究所(日本建築学会)

(3) 小規模建築の省エネルギー方策と建築士の新たな役割
篠 節子(日本建築士会連合会)

3部「地域における脱炭素化に向けて」

基調講演 「パリ協定の今 世界の潮流と日本の動向」
高村 ゆかり(東京大学未来ビジョン研究センター教授)

話題提供 (1) 脱炭素型団地再生
平井 勝(都市再生機構技術コスト管理部)

(2) ストック改修による市街地の再生
中村 美和子(日本建築学会)

(3) 農村集落の低炭素化
小林 久(農村計画学会)

4部 討論:「低炭素社会推進会議への期待」

モデレーター 横尾 昇剛(日本建築学会)

パネリスト 中島 恵理(環境省 環境計画課), 下田 吉之(前掲), 中上 英俊(前掲),
篠 節子(前掲), 平井 勝(前掲), 中村 美和子(前掲), 小林 久(前掲)

まとめ 中村 勉(前掲)

申し込み

申し込み方法: 申し込みはこちらからお願いいたします。
事務局:(公社)日本建築士会連合会 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階 Tel:03-3456-2061

構成団体:(公社)空気調和・衛生工学会,(一社)建築設備技術者協会,(一財)建築環境・省エネルギー機構,
(一社)建築設備総合協会,(一社)住宅生産団体連合会,(一社)電気設備協会,(一社)都市環境エネルギー協会,(一社)日本サステナブル建築協会,(一社)日本建設業連合会,(公社)日本建築家協会,(一社)日本建築学会,
(一社)日本建築構造技術者協会,(公社)日本建築士会連合会,(一社)日本建築士事務所協会連合会,(一社)日本太陽エネルギー学会,(公社)日本都市計画学会,(一社)日本木材学会,日本ヒートアイランド学会,農村計画学会,
(一社)日本ビルディング協会連合会,(一社)照明学会

協賛団体:(株)総合資格